

令和4年度 学校自己評価（年度末）

基本方針 安全・安心で生徒職員ともに元気な学校づくり SDGsの理念を踏まえて、生徒の長所を引き出し地域社会に貢献する学校づくり				
重点目標		具体的目標		
<p>1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、粘り強い指導で規範意識の醸成を図る。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、基礎基本の学力定着を図る。</p> <p>3 社会の担い手となるために、キャリア教育の一層の充実を図る。</p> <p>4 部活動や地域活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図りながら、本校の取組を中学校や地域に積極的に発信する。</p> <p>5 教職員間のコミュニケーションや連携を図り、多忙化解消や不祥事防止に努める。</p>		<p>(1) 生活指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②元気なあいさつ・返事 ③ルールへの遵守、マナーの向上、TPOに応じた行動の確立 ④身だしなみ指導の徹底 ⑤保護者との早めの連携 ⑥多様化する生徒への対応の充実 ⑦社会の大人としての責任と自覚の確立</p> <p>(2) 学習指導 ①授業規律の徹底 ②授業力の向上、授業改善 ③家庭学習の定着 ④「総合的な探求の時間」の指導プロセスの明確化とプログラム化 ⑤Core バスケットネットワーク事業による教育課程の一層の充実 ⑥スクールエンジンの運用による新教育課程の円滑な実施</p> <p>(3) 進路指導 ①3年間を見通した進路指導のプログラム化 ②キャリア教育を通じた基本的な生活習慣や授業規律の再認識 ③「社会の担い手となること」を基本とした就職指導の充実 ④積極的かつ適時となる情報の提供と活用による進学指導の充実</p> <p>(4) 部活動・特別活動・地域活動 ①学校全体としての部活動・学校行事・地域活動などの充実・発展 ②生徒自らの企画運営による生徒会活動、委員会活動の充実 ③ボランティア活動を通しての道徳心の育成 ④地域コンソーシアムの構築と外部の人材・組織の活用</p> <p>(5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①業務の適正化 ②確実・適切なメンタルヘルスの保持 ③年次休暇の計画的な取得を促進する環境整備 ④不祥事の防止</p> <p>(6) その他 ①効率的・効果的な環境美化 ②積極的な情報発信（ホームページ、Instagramの適時な更新）や地域への広報 ③知多半島内の中学や地域との連携の推進 ④同窓会との連携</p>		
担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	①PTA活動をより充実させる。	PTA活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	・HPやInstagramを行事ごとにタイムリーな更新ができた。日常の様子についてはあまり更新できず、次年度の課題である。次年度はPTA会報の発行の際、PTA委員を交えて、原稿をつくるよう企画をしていきたい。
	②内海高校の魅力を発信する。	きめ細やかな情報発信をしていく。	B	・中学校や地域向けの学校案内ポスターの計画は頓挫したが、次年度は作成し、近隣施設や商店等へ掲載をお願いしたい。 ・学校ゆるキャラの作成ができた。次年度はそれをういた物品を開発、作成したい。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
教務	①落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かう環境を作る。	B	・授業中の居眠りや私語、忘れ物など授業規律に違反する事柄があった場合には記録し、違反が多い生徒に対しては担任や学年から指導をした。どのクラスも概ね落ち着いた環境で授業ができた。
	②新しい教育課程の実施に向けた環境整備と業務の改善を図る。	生徒指導要録や通知票等書類の改訂と、観点別評価の具体的実施方法を策定する。	B	・今年度の1年生より新しい校務支援ソフトを利用し、出欠記録や成績処理を行っている。通知票や生徒指導要録の作成も校務支援ソフトを利用し、作成しているが、ソフトに不慣れなため、業務効率の改善にはあまり繋がっていない。 ・観点別評価の配点や評価方法の例を教務部から示し、各教科で実践しながら課題点を共有しながら実施することができた。
生徒指導	①基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻を減少させ、皆勤者の増加を図る。	B	・感染症の予防と欠席遅刻数を減らす指導の両立に難しさを感じた。安易に欠席を選んでしまう生徒が増えるなか、個別に指導することで欠席や遅刻をしなくなる生徒もいた。また原因がよく分からず不登校になってしまう生徒も増えているが、個別の対応により登校できるようになった生徒も多い。
	②ルールの遵守、マナー向上	ルール・マナーを遵守し、TPOに応じた行動ができるよう促す。	B	・校内だけでなく校外でも、マナーは向上していると感じる。意図的にルール違反をしようとする生徒は激減した。挨拶は少しずつ元気がよくなっているが、気持ちの良い返事や丁寧な言葉遣いについてはまだ不十分である。
	③学校行事、部活動、地域貢献活動の活性化と充実	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A	・学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的に考え行動する場面が増えた。学校祭は生徒の前向きな活動で、どの発表も例年以上のクオリティだった。校則の見直しでは生徒会が中心となって活動し、髪形の規定を変更した。
		部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	B	・どの部活動も活発な活動が行われている。 ・各部活動の所属人数が少ないため、指導が行き届く一方、練習や試合では少し寂しい状況がある。
④安心安全な学校生活	いじめ事例に組織的に対応する。	A	・学年と連携し、きちんと対応できている。職員間でも生徒情報を密に交換している。 ・小さな人間関係のトラブルへ素早く対処することで、重大ないじめ事案は今のところ見られない。	
	多様化する生徒への対応を推進する。	B	・生徒の話を聞き、一人一人に寄り添った対応をとることができた。問題を解決する取組みだけでなく、生徒にとって安心できる居場所づくりをし問題を予防する取組みを意識することができた。	

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
進路指導	①進学指導・就職指導を充実させる。	進学・就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化をしっかりと図り、適切な指導ができるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導として、合格を目指して対策学習に取り組みさせた。また、補習と模擬試験を連携させ、学力の向上を図った。今年度の3年生9名が希望校へ合格となった。 ・就職指導として、教員間で事業所に関する情報の共有を図り、生徒の受験先の決定と合格への対策指導を行った。求人数もコロナ前の状況と同等になり1次内定率は87%となった。 ・進学、就職ともに、直前、直後の変更希望者が出た。学年との連携をこれからも密にして臨機応変に対応していく必要がある。
	②低学年から進路意識を持たせる。	進路行事を積極的に活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大に気をつけながら、インターンシップ、大学や企業の説明会などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。インターンシップについては、参加した生徒（1年20名、2年22名）はそれぞれの事業所（10箇所）で概ね良い評価をいただいた。コロナ流行と重なり事業所から直前のキャンセルがあったり、生徒も発熱などで実施できない事態となったが、希望者へは担当者のもと学校で代替措置を行った。 ・2年生対象のキャリアステップ講座も事業所とのやりとりは学校主体へ移行した中、大きな問題もなく実施できた。来年度よりアスクネットの協力なしで事前指導・事後指導を行うが、今年の経験を基に、より各学年の生徒に適した内容にしていく。
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実	地域とあゆむボランティアの活動を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とあゆむボランティアについて、UFFFのメンバーを中心として河和海岸の清掃を今年度から実施することができた。 ・大地の丘ボランティアは大地の丘の職員の方のご意向で、多くの人数がリモートで入居者の方とふれあうことができるようになった。 ・高校生ボランティアアワードにはUFFFのメンバーが中心となって参加した。今年度もオンラインでの開催であった。これまでは教員が作成していたポスターを、今年度はUFFFのメンバーがアイデアを出して作成した。発表もUFFFのメンバーが中心となって準備した。生徒主導の活動に移行できそうである。
	②生徒委員会活動の充実	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花を植えることができた。水やりはクラスで順番に回しているが、除草までは手がまわりきれていない。 ・清掃道具点検は、前期・後期で実施できた。前期はトイレ掃除点検もできた。定期的な点検をしながら、生徒の意識を高めていきたい。

保健 厚生 生		保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 一年を通して継続的にみはりん坊を実施することができた。廊下に掲示してあるホワイトボードも毎日欠かさずに行える生徒もいたが続かない生徒もいるため、工夫が必要である。 学校保健委員会では外部の専門家をお呼びし、本校生徒にとって実りある時間を作ることができた。アンケート結果も好意的な意見が多数。
	③相談活動の充実	スクールカウンセラー（SC）と連携し、相談活動を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年からSCが代わったが、うまく生徒の話を聞いていただき、連携はとれた。 SC以外では、養護教諭に相談が集中しており、負担が大きくなっているため工夫したい。 支援・配慮の必要な生徒には丁寧に対応できた。
1 年	①規範意識の高揚、基本的な生活習慣の確立	自分を見つめ自分を理解して自己の見直しを図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は、自己の成長のために、何事にも前向きに取り組むことが出来ている。一方で、欠席・遅刻の数が減っていかず、自己管理のできない生徒が多い。出席の意義を進路と結び付けて考えさせていく。
		ルール・マナーを守る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 校則を含めたルールを守るという意識は、これまでの学年よりも高く感じる。行事に関しても、ルールが分からない場合は教員に確認するなどの行動が見られた。ルールを守るだけでなく、より良く見えるような行動ができるように指導していく。
	②学習習慣の充実	提出物・課題の提出期限を守る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任を中心とした粘り強い指導と、新課程の評価方法により、提出物への意識は高い。今後は、やらされる課題から課題を使っての自主学习へと発展させていく。
		基本的な学習習慣をつくる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 考査週間に学校に残って勉強する生徒が増えている。考査に向けて、学習時間が増えたり、自習にも前向きに取り組む生徒が多い。今後は基礎力診断テストや検定試験などの学習に取り組む上位層の生徒を伸ばしていく。
2 年	①進路実現を意識した行動	自己理解を深め、自分が社会で貢献できる分野を見つける。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、そのときの状況にあった重点目標を設定し、その目標を達成できるように担任を中心に声かけを行った。多くの生徒は重点目標を意識しながら生活し、振り返りを行えた。これからも継続して行う。
		学年皆勤の生徒を増やす。	B	<ul style="list-style-type: none"> 体調管理がうまくできず欠席、遅刻、早退の数は増えている。皆勤率は約5割。引き続き生活習慣も踏まえて声かけを行う。
	②コミュニケーション能力の育成	TPOに応じた言葉遣いと積極的な挨拶や返事を身に付けさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標で取り組んだこともあり、自分から挨拶をする生徒は増えた。また、集会での話を聞く姿勢もできてきている。状況に応じた行動や振る舞いが自然とできるように引き続き伝え方を工夫する。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
2年		伝える力の向上を図る。	B	・自分を表現する力や伝える力に課題を感じる。また、自分本位の解釈をすることによる人間関係トラブルも発生した。コミュニケーション能力の更なる向上を図る工夫を行う。
3年	①進路の実現	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	A	・朝と帰りのST前に、基礎学力向上のための10分間プリントを実施した。時期によりテーマを変えて実施し、生徒も意欲的に取り組むことができた。朝と帰りの時間以外にも、自主的に学習に取り組む生徒も見られた。
		進路意識を高めさせ、進路指導を充実させる。	B	・卒業後の進路実現に向け、主体的に取り組んでいた。自分の希望に沿った進路先を見つけるのに苦労した生徒が多くいたが、全ての生徒が希望する進路先に決定することができた。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成	皆勤率の向上を図る。	B	・19/39人で2年次と同じ割合となった。就職や進学試験が終わった後も良い生活習慣を継続してできた生徒とそうでない生徒の二極化が見られ、欠席が増加した。
		身だしなみルールの徹底を図る。	B	・昨年に比べ身だしなみを整えることへの意識は高まっていた。しかし、進路決定後に気が緩み、就職や進学試験に向けて取り組んでいた時の身だしなみよりも崩れる生徒が見られた。
		コミュニケーション能力の育成を図る。	B	・自分を自分らしく表現できるようになった生徒が多く見られた。また、話の理解力も高まっていた。一方で、気の緩みから挨拶への意識の低下が見られた。